

特定非営利活動法人YMCAコミュニティサポート

2018年度事業報告



第18期

2018年4月1日～2019年3月31日

2018年度 事業の特色

YMCAコミュニティサポートは、積み上げてきた実績と安定した運営の元、2018年度も順調な運営を行いました。今年度の特徴的な報告事項は以下の通りです。

①サポートセンターの運営は順調

利用者は昨年から若干の増となり、2008年以降、10年連続の増となった。ただし増加率はここ数年減少している。また、利用団体数は減少しており、さらなる利用者呼び込みの工夫が必要と考える。

②市の評価は高い

月ごとに公開される指定管理者としての評価は、概ね高い評価を得ている。

③今年度の事業展開の特徴

過去数年間積み上げてきた新規プロジェクトを確実に継承し発展させてきた。同時に新たな企画としては、

- ・ハッピーのたろんプロジェクトの発展として「子育て応援ネットワーク」を立ち上げ、事務局として学習会や交流会を企画、運営。

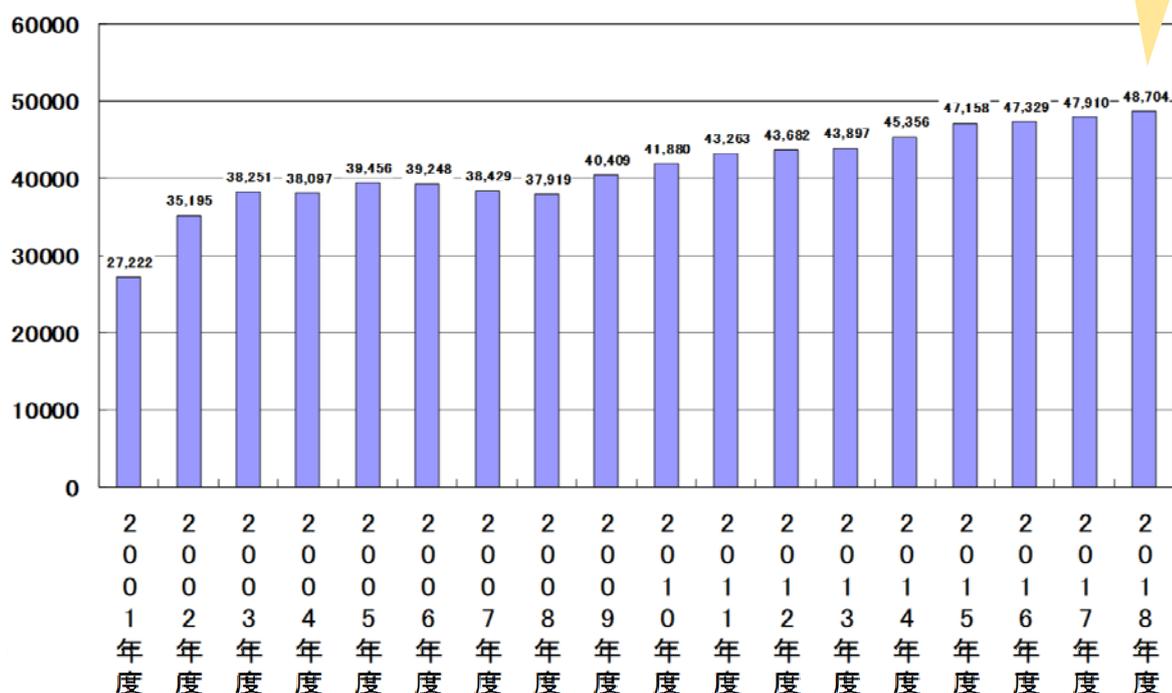
- ・同じくハッピーのたろんプロジェクトの発展として「よこすか三浦子ども食堂ネットワーク」を立ち上げ、事務局として、団体間の情報交換に寄与したこと。

などがあげられる。

■10年連続の利用者数増

48,704

2001年度～2018年度利用者数推移

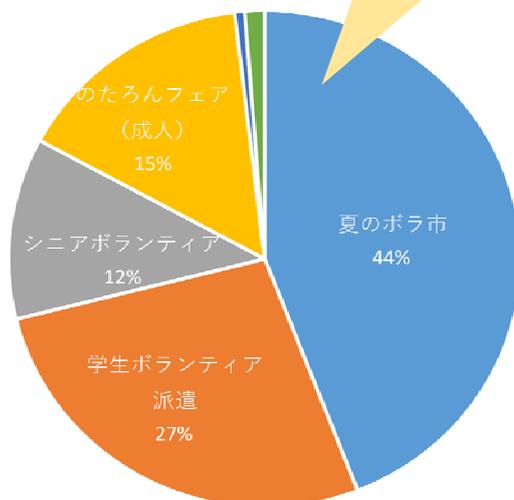


■ボランティアの育成と活躍の場をつくる。

－796人のボランティア－

夏のボラ市	351名
学生ボランティア派遣	215名
シニアボランティア	94名
のたろんフェア（成人）	121名
生涯現役ボランティア	5名
プロボノ	10名

※詳細はA.ボランティア人材育成事業

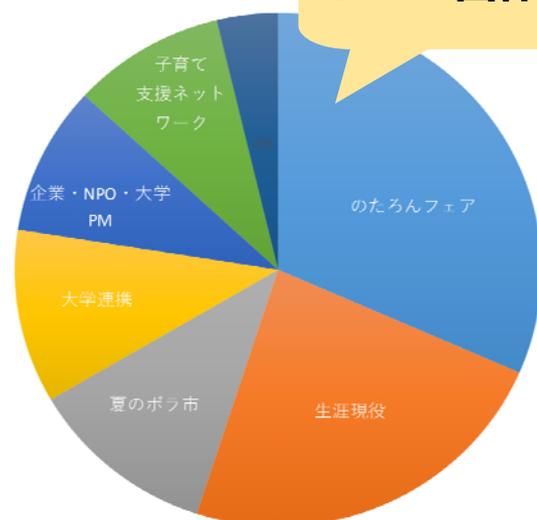


■市民団体の活躍の「場」を創る。

－320団体の活躍をサポート－

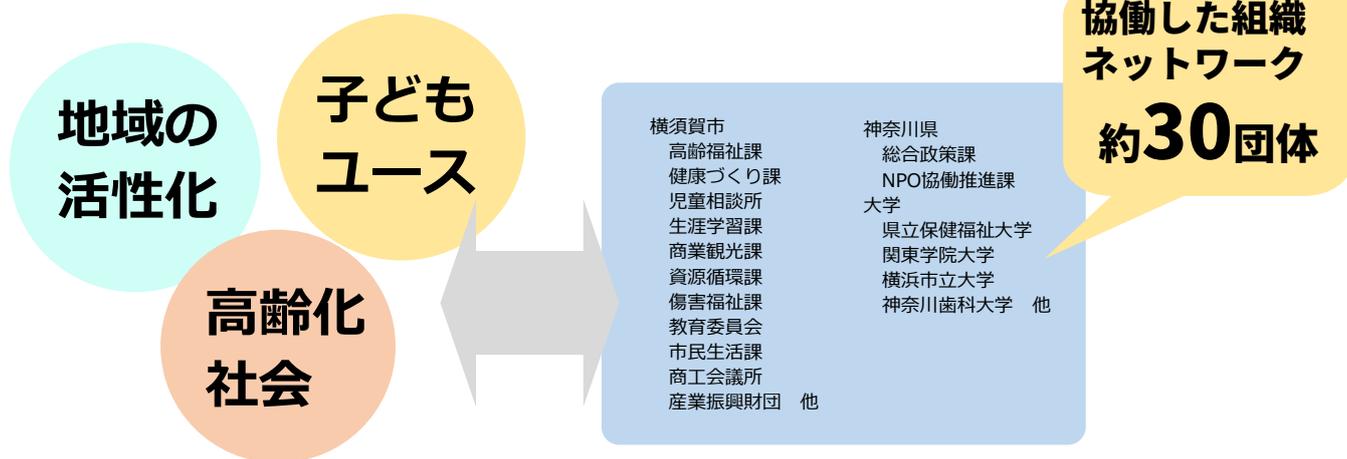
のたろんフェア	101団体
生涯現役	75団体
夏のボラ市	37団体
大学連携	35団体
企業・NPO・大学PM	30団体
子育て支援ネットワーク	30団体
その他	12団体

※詳細はB.活動の「場」創出



■地域課題・社会課題にともに取り組む

－行政、第三セクター、中間支援組織との協働－



※詳細は1-④連絡調整 E.地域課題、社会課題への対応

■ 事業報告

事業報告は、改正NPO法およびNPO会計基準に則り、定款との連続性、収入源のあり方から3本の柱に分けています。しかしながら事業の目的・テーマとしては各事業が重なり合う部分もあります。

1. サポートセンター管理運営事業：

横須賀市立市民活動サポートセンターの指定管理者として指定管理料でおこなう事業。

2. 自主事業：

サポートセンターの使命に即した事業で、事業からの収益等、指定管理者の財源で行う事業。

3. 法人独自事業：

法人の使命に基づき独自の財源、また市や県、その他の民間団体からの委託、補助金、助成金等で行う事業。

1. サポートセンター管理運営事業

横須賀市の施設「横須賀市立市民活動サポートセンター」を指定管理者として運営しました。2018年度は指定管理期間（2017.4～2021.3）の2年目でした。

サポートセンター条例等関係法令を遵守し、指定管理協定および指定管理業務仕様書に沿って誠実に施設管理運営しました。①～⑤は市との協定書に定められた業務内容です。

市からの評価として年間を通して「業務は全般にわたり、適正かつ誠実に良好な管理運営が行われている。」という評価をいただきました。（3月までの月次評価。年次評価の公表は6月予定）

①施設管理業務

サポートセンターの施設管理は健全に行われました。

利用者数は2008年以降過去最大となり、10年連続で増加しました。

ただし傾向として伸び率は伸び悩んでいます。その理由は、数年前よりネットプリントの一般化に伴い大人数で印刷作業にくる団体が減ってきたこと、またいくつかの地域コミュニティセンターに印刷機が導入されてきていることなどが理由と思われる。そのような中でも、それを上回る利用者増があったと思われます。

しかし今後は利用者数が減少に転ずることもありうるという危機

感をもっており、2017年度の途中から「にぎわい大作戦」を企画し、より利用しやすいサポートセンター、今まで利用していなかった層へのアプローチ、サポートセンターをまだ知らない層へのアプローチを強めました。



◇2018年度 実績

- 利用者数 別紙
- 市の評価 別紙

②情報収集提供業務

情報は収集の努力なくして発信の質と量は高まらないと考え、2018年度も多くの情報提供を呼びかけ、様々な方法で発信しました。

今年度の特徴は、情報ツールとしてのSNS（（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の稼働があげられます。昨年度から試験稼働していたFacebookは「夏のボラ市」「のたろんフェア」等での情報発信に活躍しました。

◇2018年度実績

● 掲示、配架

・館内配架（活動団体のチラシ等）	1200点
・みんなの掲示板（活動団体のポスター等）	367点
・何でもインフォメーション	42点
・助成金、補助金の情報コーナー	点数未確認
・活動紹介コーナー(2か所)	48団体

● 発行物

・のたろん通信	2,250部（毎月 A4表裏）
・季刊誌のたろん	2,300部（年4回4ページ）
・夏の体験イベント情報冊子	1,500部（47企画紹介） 37団体
" ダイジェスト版	3,000部
" 報告集	650部
・ひくてあまた月間イベント情報	5,000部（75企画紹介） 68団体
・のたろんフェアプログラム	5,500部（101団体紹介） 101団体
・ボランティア情報冊子	1,500部 81団体

● メディア出演等

・ラジオ出演（FMブルー湘南）コーディネート	39団体
------------------------	------

● 特別掲示（ロビー等）

・ピンクシャツデー特別展示（メッセージ110枚）
・3.11を忘れない特別展示（8団体）

● Web発信

・WEBサイト更新	毎週更新
・メールマガジン発信	毎月5日（のたろん通信）
・SNS等ネット発信	適宜実施

● 掲載協力

・広報よこすか
・タウンニュース（横須賀版）
・生涯現役デビュー（横須賀商工会議所 3万部）への協力

● マスコミ発信

・記者クラブへのプレスリリース	適宜実施
・個別記者への情報発信	適宜実施



ピンクシャツデー（特別展示）

③相談業務

市民団体およびボランティアへの相談業務は、ロビーワークを中心にした初級レベルの相談対応から、難度の高い相談、さらには専門的な領域の相談などにも対応する体制をとってきました。

- ・簡易な相談 受付およびロビーワーク（全スタッフ）
- ・運営上の相談等（常勤スタッフ中心に対応）
- ・難度の高い相談 NPO法人の立上げ、法人の会計・財務・労務等（館長、館長補佐）
- ・外部連携による相談（LEAP＝土業ボランティアとの連携などによる）
- ・その他の相談（市の他部署への問い合わせ、他施設への問い合わせ、観光案内等、サポートセンター業務以外の多くの問い合わせにも可能な限り丁寧に対応しました。）

◇2018年度実績

●相談件数

- | | |
|---------------------|------|
| ・窓口対応 | 915件 |
| ・起票分（スタッフ間でシェアした事案） | 61件 |

※ただし相談を受けた者が他スタッフへのシェアとして記録した報告件数のため簡易な相談や高度な相談は数に入っていません。

●今年度あった高難度、専門的な相談内容の例

- ・フードバンク、子ども食堂立上げ相談等
- ・子どもの貧困支援活動への相談
- ・市の各課からの相談（支え合い組織支援に関して。県「100歳時代計画」対応プログラムなど）
- ・県大教授からの支援依頼の相談 等

④連絡調整業務

連絡調整業務は、単なる行政各課等との連絡や会議等にとどまることなく、地域のステークホルダー（多様な主体）が綿密に連絡を取り合い、多くのネットワークに参加し、また自ら発案者となってコレクティブインパクトの手法で「地域課題・社会課題への対応」を生み出すと考えています。

◇2018年度実績

●横須賀市各課、第三セクター、中間支援

- ・サポートセンター報告会（指定管理者と市民生活課の定例会議）
- ・サポートセンター運営懇話会（年4回 市主催）
- ・横須賀市文化スポーツ観光部観光課（市のイベントへの協力、ボランティア派遣等で連携）
- ・横須賀市観光協会（イベントへの協力、ボランティア派遣等で連携）
- ・横須賀市健康づくり課（生涯現役、地域活動シンポジウム等での連携）
- ・横須賀市高齢福祉課（支え合い人の輪づくり等での連携）
- ・横須賀市障害福祉課（イベントへの協力、ボランティア派遣等での連携）
- ・横須賀市障害福祉課（肢体不自由児者運動会への協力、ボランティア派遣等での連携）
- ・横須賀市児童相談所（児童養護施設支援、協働展示会の開催等で連携）
- ・横須賀市資源循環推進課（ボランティアによる清掃活動の共同開催等で連携）
- ・横須賀市社会福祉協議会（イベントへの協力、ボランティア派遣等での連携）
- ・高齢者支援ネットワーク「介護予防・日常生活支援総合事業会議」委員 年4回

- ・中間支援組織情報交換会（ボランティアセンター、生涯学習センター、シルバー人材センター）
- ・生涯現役会議（市・健康づくり課、高齢福祉課、市民生活課、地域コミュニティ課、教育委員会、社会福祉協議会 民間4団体）年10回
- ・横須賀市の経済系中間支援（横須賀市商工会議所、産業振興財団、商店会との協力）
- 神奈川県および近隣行政
 - ・神奈川県NPO協働推進課（NPO企業大学パートナーシップ推進事業他で連携）
 - ・神奈川県政策局政策部総合政策課（人生100歳時代ネットワーク会議に協力）
 - ・近隣支援センターとの連絡調整（逗子交流センター、三浦市市民協働課と連携）
 - ・逗子市民協働懇話会
- NPO主体の連携
 - ・「子育て応援ネットワーク」の事務局
 - ・「よこすか三浦子ども食堂ネットワーク」の事務局
 - ・「パパママ学園」相談役
- 大学
 - ・県立保健福祉大学 名誉学長阿部志郎氏、前学長山崎美貴子氏、所長金龍哲氏、新保教授、生田准教授、企画課、ボランティアセンター、地域貢献研究センターとの連携
 - ・関東学院大学 多文化共生・地域連携センター、CVCとの連携
 - ・神奈川歯科大学 ジャカランダフェスティバル、稲岡祭に協力
 - ・横浜市立大学 地域貢献センターボランティア支援室との連携
- 視察対応
- 各種調査対応

⑤市民公益活動促進事業の実施

市民、市民団体がより公益的な活動を行い市民社会の柱となれるよう、テーマ別に以下の促進事業を行いました。

※テーマ別に、まとめたものですのでその他の報告と重複している部分もあります。ご了承ください。

A. ボランティア・市民活動人材育成事業

市民社会で活躍できる人材を育成するため年代別、カテゴリー別に人々の力を引き出す事業を実施しました。

◇小学生～中学生

夏の市民活動ボランティア体験用の冊子を生涯学習センター、ボランティアセンターと共に作成し横須賀市の小中校に全校配布しました。

◇若者（高校生～）

若者の市民活動参加、社会参加を促すため大学などを中心に登録ボランティアを募集し、登録者にボランティア情報を発信しました。

・登録ボランティア制度（さぼサポ）

大学 県立保健福祉大学、関東学院大学 他 登録数：約600名

・ぼぴーぐみ（サポートセンターのユースリーダー）



県大でボランティアの講座

高校生を中心に20人の自主グループ 清掃活動、ラジオ番組出演などを中心に活動

◇現役社会人のボランティア促進（プロボノ事業）

現役社会人が仕事上のスキルを使ってボランティアを行うプロボノ事業を実施しています。

◇シニアの市民活動参加、ボランティア育成

市との協働「生涯現役プロジェクト」や「ひくてあまた月間」を設けるなど年間を通して様々な活動を展開しました。

◇サポートセンターの支援ボランティア

サポートセンターの企画中心にイベントのサポートを行うボランティア

- ・4Sクラブ サポートセンター主催事業の企画・運営ボランティア
- ・情報化支援ネットワーク パソコン教室の情報化支援ボランティア3団体
- ・編集ボランティア 季刊誌のたろんの編集ボランティア

◇2018年度の実績

●いきいき市民塾開講

2017年3月より、市民活動の担い手、ボランティアを養成する目的で、市民活動の先輩から学ぶ「いきいき市民塾」を開始しました。

- ・いきいき市民塾（年4回企画 協働：4Sクラブ）
- 夏のボラ市（ボランティア市民活動体験 7月中旬～8月）
- ・生涯学習C、ボランティアCと協働し販路を共用
- ・小中学校、高校生のボランティア推進（学校配布）
- ・大学でのボランティア推進講座（県大、関東）

・約50イベントを協力実施 参加者 2566名・ボランティア 351名

●大学生のボランティア派遣

- ・児童養護施設（しらかば子どもの家）ボランティア 10名
- ・横須賀市のイベントに派遣（ ）内は依頼主または主催者、人数はのべ人数

①ANAウインドサーフィンワールドカップ（横須賀市観光企画課）5/12,13 ボランティア数 13名

②よこすかカレーフェスティバル（横須賀市 観光企画課）5/19,20 ボランティア数 106名

③よこすかYYのりものフェスタ（横須賀市観光協会）6/9,10 ボランティア数 59名

④ジャカランダフェスティバル（神奈川歯科大学）6/17 ボランティア数7名

⑤肢体不自由児者運動会（横須賀市 障害福祉課）10/6 ボランティア数 21名

⑥赤い羽根共同募金（横須賀市社会福祉協議会）10/6 ボランティア数 11名

⑦わんぱくフェスティバル（わんぱくフェスティバル実行委員会）10/28 ボランティア数 6名

⑧稲岡祭（神奈川歯科大学）11/4 ボランティア数 7名

⑨のたろんフェア2019（市民活動サポートセンター主催）

プレイベント 1/26 ボランティア数 7名

フェア当日 2/9,10（着ぐるみ、会場設営・撤去等） ボランティア数 29名

●プロボノ

2団体を支援 プロボノワーカー（ボランティア） 10名

●成人ボランティア

- ・のたろんフェア クリーン大作戦（2/2） 123名
- ・のたろんフェア 実行委員会 14名
- ・のたろんフェア 運営ボランティア 8 81名



第一回いきいき市民塾

※ボランティア合計796人

B. 活動の「場」創出

市民活動団体の支援は単に施設提供や情報提供だけでなく、市民団体の活動の「場」、アピールの「場」、資金獲得の「場」、ネットワークづくりの「場」を自ら生み出すことだと考えます。

◇2018年度の実績

- ・ 県立保健福祉大学「ボランティア市民活動論」で活動PR（4月・5団体、7月・4団体）
- ・ 関東学院大学での夏の市民活動・ボランティア体験参加PR（7月・4団体）
- ・ 神奈川歯科大学 市民感謝day「ジャカラダフェスティバル」 参加20団体をアレンジ
- ・ 神奈川歯科大学 学園祭「稲岡祭」 参加15団体をアレンジ
- ・ のたろんフェア（2月）101団体の活動発表の場
- ・ こたろんフェア（市内地域作業所 4団体）協働実施
- ・ チャイルドファクトリー子育て支援を主とする 7団体）の無料工作教室の実施
- ・ 夏のボランティア・市民活動体験の実施（37団体）
- ・ 生涯現役フォーラム（11月）に約25団体の発表の場創出
〃 の前後2ヶ月『ひくてあまた月間』（協力企画として市民団体が約50企画実施
- ・ 企業NPO大学パートナーシップミーティング
マッチングの機会を望むNPO 約30団体に機会の提供
- ・ 子育て支援系団体のネットワーク 30団体



チャイルドファクトリー

※市民活動団体に320の活動の「場」等を提供しました。

C. NPOの組織強化支援

任意団体NPO及びNPO法人が市民社会で大きな柱となることがよりよい社会の方向性であると考え、活躍の場が広がるよう財務、広報、法務その基盤強化につながる支援を行っています。

◇2018年度の実績

- ・ NPOのための法務・税務他なんでも無料相談会開催（生涯現役フォーラム内）
- ・ 高度な相談（財務、法務他）の相談にも対応
- ・ 法人立ち上げ支援（相談業務 数件）
- ・ 他団体とNPO法学習会の共催実施（9月9日、10月21日）
- ・ 補助金、助成金情報の発信
- ・ ボランティアポイント制度を市から委託され実施
- ・ プロボノによる基盤強化支援

D. 市民活動の啓発活動

阪神淡路大震災（ボランティア元年）から始まった市民協働、市民が公共の担い手となる市民運動を常に見直し、風化しないように確認していく。同時に20年間で変わってきた新しい市民社会の仕組みを確認

していく。

◇2018年度の実績

- ・社会課題、地域課題に対応
ネットワーク会議等で「コレクティブインパクト」手法を提案してきました。
- ・企業系中間支援との連携
商工会議所、産業振興財団との協力事業をもとに連携を強めてきました。

E. 地域課題、社会課題への対応

市民活動団体、NPOの役割の一つは地域課題、社会課題への対応にあります。さらには課題に対する政策提言や弱者権利擁護の提案（アドボカシー）も重要な役割です。

サポートセンターでは地域のステークホルダーと一緒に多くの市民活動団体、NPO等を巻き込んで地域課題、社会課題にも対応してきました。

◇2018年度実績

(1) 子ども・ユースの未来を地域で支えるために

子どもたちの未来、特に児童虐待、いじめ防止への対応を地域と連携しておこなう。

- ハッピーのたろんプロジェクトの発展
 - ・朗読劇ハッピーバスデー100人実行委員会の流れを再確認し発展的に継承する
 - ・「よこすか子育て応援ネットワーク」の事務局
 - ・ネットワーク加盟団体交流会（7月6日、11月11日）
 - ・子育て応援学習会（3月2日 横浜市大三輪准教授）
- ピンクシャツデーの横須賀エリアでの拡大
 - ・子育て支援系団体の協力、SNS等での発信
 - ・特別掲示
- オレンジリボンとの連携
 - ・児相と協力して展示会実施



(2) 高齢社会を地域で支えるために

シニアの社会参加と地域の支え合いで高齢社会を支える。

- 生涯現役フォーラム&ひくてあまた月間
 - ・市5課、民間4団体、県大の連携
 - ・フォーラム（11月、W講演とセミナー、展示会等）
 - ・ひくてあまた月間（11,12月に約50企画を協力実施協力）
- かながわ人生100歳時代ネットワーク（県主催）への参加、ワークショップメンバー
- 助け合い組織の支援事業
 - ・地域で支え合う人の輪づくり講演会（12/22 70名 協働：高齢福祉課 高橋が総合司会とグループワークのコーディネート）
 - ・総合事業第二層の支援に参画



地域活動シンポジウム

・支え合い学習会（2/25,3/5 協働：高齢福祉課）

- パソコンでシニアがシニアを支援
- ・シニアのパソコン支援3団体と協力

(3) 地域の活性化を進めるために

行政、商工会議所、企業、商店会等とNPOの連携を進め地域経済・地域文化の発展などを促進する。

- 企業・NPO・大学パートナーシップミーティング
- ・県主催、三浦半島エリアでの事務局の受託
- ・大学の社会貢献センター等との連携により地域課題と大学を結ぶ
- ・近隣サポートセンターと連携して三浦半島広域でNPOが活躍できる環境づくり（逗子市、三浦市との協力）
- ・市と商工会議所共催の企画をコーディネート（講演、パネルディスカッションの司会）
- ・市中間支援組織7団体協力



企業・NPO・大学パートナーシップ

2. 自主事業

サポートセンターの自主事業は、指定管理者がサポートセンターの目的に合致した事業を独自の財源で行う事業されています。以下の自主事業を行いました。

2018年度の実績

- ①大型プリンター設置
 - ②中ロッカーの設置、一時預かりサービス
 - ③コピー用紙、消耗品販売
 - ④パソコン講座
 - ⑤法人所有および寄付による備品貸し出し
- 利用状況の集計 別紙

3. 法人独自事業

法人独自事業は、NPO法人YMCAコミュニティサポートが、その使命に基づき指定管理業務以外に行政から委託を受けて行う事業、補助金・助成金を得て行う事業、および法人の独自判断で行う事業です。

内容的にはサポートセンター事業の⑤「市民公益活動促進事業の実施」と重なり合う部分もありますが、財源を別途得た上で行う事業はこちらに挙げています。

2018年度の実績

■委託事業

◇ボランティアポイント制度実施

■補助金・助成金

◇企業・NPO・大学パートナーシップミーティングin横須賀三浦 開催（神奈川県より助成）

◇生涯現役フォーラム「生きがいづくり講演会」（市民協働補助金より）

■その他

◇震災支援事業（東日本大震災、熊本大地震）

震災から年数がたちその継続的な支援活動が問われている。登録団体や地域と継続的な支援を続ける。以下のイベント上で東日本、熊本市内の地域作業所の物品販売や東日本支援展示、講演、募金活動を行った。

- ・こたろんフェア（5月）での東日本地域作業所支援の物品販売実施
- ・のたろんフェア（2月）で熊本市内地域作業所製品の物品販売、及び募金活動
- ・のたろんフェア（2月）東日本大震災、講演（ミニ体験コーナー内）実施
- ・のたろんフェア（2月）東日本大震災の横須賀避難者（54世帯）へ招待状を発送、情報発信（1世帯来場）

- ・3.11を忘れない展示会

◇YMCA関連

- ・日本、世界のYMCAと協力しての活動に参加
- ・三浦半島および広域での市民活動促進に協力



3.11を忘れない



被災地と横須賀（パネルディスカッション）